

【漢検漢字文化研究奨励賞】佳作

「六書」について

会社員（富山大学 人文学部卒業） 早川 咲

- 1 はじめに
- 2 「六書」
 - § 1 「六書」最古の用例
 - § 2 細目の名称と定義
 - § 3 六書の伝統的解釈
 - § 4 漢字の形成過程と六書
- 3 漢和辞典における六書分類
 - § 1 調査
 - § 2 分析と考察
- 4 六書解釈が一致しない理由
- 5 おわりに

1 はじめに

私が小学生の頃、漢字の構造が「六書」の考え方をういて説明されていたことを記憶している。膨大な数の漢字をたったの6つの項に分類できることに興味をそそられ、それ以来「六書」という分類法には何の疑いも持たずに納得していたが、理解はいまひとつ漠然としていたように思う。大学の講義で再び「六書」にふれる機会に恵まれたことから、改めて「六書」のことを詳しく知りたいと思ったのがこのテーマを取り上げたきっかけである。

まずは「六書」ということとその定義を確認しようとしたのだが、やはり理解しがたい部分があったため、実例を確認してみようと考え、現在日本で通行している複数の漢和辞典類を調べてみることにした。本稿はその調査の報告である。

2 「六書」

§ 1 「六書」最古の用例

「六書」最古の用例は、『周礼』地官・保氏に見える。

保氏掌諫王惡，而養國子以道，乃教之六藝，一曰五禮，二曰六樂，三曰五射，四曰五馭，五曰六書，六曰九數。

(保氏は王の悪を諫むるを掌り、而して國子を養ふに道を以てす、乃ち之に六藝を教ふ、一に曰く五禮、二に曰く六樂、三に曰く五射、四に曰く五馭、五に曰く六書、六に曰く九數。)

ここに見られる「六書」は貴族の子弟に教えられる「六芸」の項目中の一つだが、本文中にはこれ以上の具体的な説明はない。六書の細目の名称や定義についての言及は、後漢以降にはじめて現れる。

§2 細目の名称と定義

①『漢書』藝文志・六芸・小学

易曰：「古者八歳入小學，故周官保氏掌養國子，教之六書，謂象形、象事、象意、象聲、轉注、假借，造字之本也」。

(易曰く：「古者八歳にして小學に入る，故に周官保氏は國子を養ふを掌り，之に六書を教ふ，象形、象事、象意、象聲、轉注、假借を謂ふ，造字の本也」。)

②『周礼』地官・保氏「六書」鄭衆注

鄭司農云、……、六書、象形、會意、轉注、處事、假借、諧聲也。

(鄭司農云へらく、……、六書は、象形、會意、轉注、處事、假借、諧聲也。)

③許慎『説文解字』序

上記①②の資料が細目の名称を記すにとどまっていたのに対し、許慎は十五篇序において六書の具体的解釈(定義と挙例)を記している。

周禮、八歳入小學、保氏教國子先以六書。

一曰指事。指事者、視而可識、察而見意、上、下是也。

二曰象形。象形者、畫成其物、隨體詰詘、日、月是也。

三曰形聲。形聲者、以事爲名、取譬相成、江、河是也。

四曰會意。會意者、比類合誼、以見指擣、武、信是也。

五曰轉注。轉注者、建類一首、同意相受、考、老是也。

六曰假借。假借者、本無其字、依聲託事、令、長是也。

(周禮、八歳にして小學に入る、保氏國子に教ふるに先づ六書を以てす。

一に曰く指事。指事なる者は、視て識る可く、察して意を見る、上、下是れ也。二

に曰く象形。象形なる者は、畫きて其の物を成し、體に隨ひて詰詘す、日、月是れ也。

三に曰く形聲。形聲なる者は、事を以て名と爲し、譬を取りて相ひ成る、江、河是

れ也。四に曰く會意。會意なる者は、類を比して誼を合はせ、以て指擣を見わす、武、

信是れ也。五に曰く轉注。轉注なる者は、類一首を建て、同意相ひ受く、考、老是

れ也。六に曰く假借。假借なる者は、本其の字無く、聲に依りて事を託す、令、長

是れ也。)

三資料から「六書」という名称が、漢代には既に文字学的にいう「六書」を意味して

いたことがうかがえる¹。しかし、三資料の細目名称には異同がある。その名称を対応させると下表のようになる。

班固「藝文誌」	象形	象事	象意	象声	転注	仮借
鄭玄『周礼』注	象形	処事	会意	諧声	転注	仮借
許慎『説文解字』	象形	指事	会意	形声	転注	仮借

『説文解字』序で挙げられた具体例の中には、後年の古文学の研究成果を踏まえると、適切とはいえないものもある²。また、各定義部分は上古韻の韻文にまとめられ、文としての美しさを追求したことにより、その内容はかなり曖昧で複数の解釈が可能となっている。しかし、許序は、定義と具体例を挙げた古い唯一の資料として、六書研究の出発点として後の文字学者たち、ひいては文字学発展の方向性にも多大な影響を与えることとなった。

後世には下に挙げた『漢書』注や『周礼』疏に、藝文志や鄭衆中の細目名称を許序の細目名で説明した部分（下線部）があることから、唐代までには許序の名称が一般的になっていたと考えてよいだろう。本論でもこの慣習に従って許序の細目名称を用いたいと思う。

『漢書』顔師古注

象形，謂畫成其物，隨體詰屈，日、月是也。象事，即指事也，謂視而可識，察而見意，上、下是也。象意，即會意也，謂比類合誼，以見指搆，武、信是也。象聲，即形聲，謂以事為名，取譬相成，江、河是也。轉注，謂建類一首，同意相受，考、老是也。假借，謂本無其字，依聲託事，令、長是也。文字之義，總歸六書，故曰立字之本也。

1 『周礼』に「六書」の文字があることから、鄭衆の説を採って周代には既に象形・指事・会意・形声・転注・仮借からなる「六書」が存在したと考えられてきた。しかし阿辻（1985）は六芸として挙げられる他の項とのつりあいからみて『周礼』における「六書」は「六種の書体」と考えるのが妥当であるとし、後年に後漢の古文学派の学者たちが六書説の来歴をより古いものにみせるべく『周礼』の「六書」に結びつけたと考えている。また、裘錫圭（1988）も『周礼』にみえる六書を「日常的に使われる少数の文字を指したもの」と考え、六書の意味を「造字の本」とするのは古文学派による「托古改制」以降のこととしている。

2 例えば、許序の会意の例には「武」が挙げられていて、『説文』十二篇下・戈部「武」の説解も『春秋左氏伝』宣十二年を引いて「楚の莊王曰く、夫れ武は功を定め、兵を戦む。故に戈を止むるを武と為す。」とする。構成要素から「戈を止める」つまり争いごとを止める事が出来てこそ「武」である、という解釈がなされているのだが、後の古文字学の成果により「止」は「とめる」意ではなく足の象形で、「武」は戈を担いだ人を表している事が分かっている。つまり「武」は本来「戈を執って前進する」ことを表す会意文字であり、許慎の引いた解釈は後世の人々による誤解である。「信」についても「誠なり。人言に従う。」とあり、人の言葉は誠であるという解釈がなされている。しかし「信」ももとは「言」に従い「人」を声符とする形声文字であると考えられており、会意文字の例としては不適切である。

(象形、畫きて其の物を成し、體に隨ひて詰屈するを謂ふ、日、月はれ也。象事、即ち指事也、視て識る可く、察して意を見るを謂ふ、上、下是れ也。象意、即ち會意也、類を比して誼を合はし、以て指撝を見はすを謂ふ、武、信是れ也。象聲、即ち形聲、事を以て名と為し、譬を取って相ひ成るを謂ふ、江、河是れ也。轉注、類一首を建て、同意相ひ受くるを謂ふ、考、老是れ也。假借、本其の字無く、聲に依りて事を託すを謂ふ、令、長是れ也。文字の義、總て六書に歸す、故に曰く立字の本也。)

『周礼』賈公彦疏

云六書象形之等、皆依許氏說文、云象形者日月之類是也、象日月形體而為之、云會意者武信之類是也、人言為信、止戈為武、會合人意、故云會意也、云轉注者考老之類是也、類一首文意相受左右相注、故名轉注、云處事者上下之類是也、人在一上為上人在一下為下、各有其處事得其宜、故名處事也、名假借者令長之類是也、一字兩用、故名假借也、六曰云諧聲者即形聲一也、江河之類是也皆以水為形以工可為聲、但書有六體形聲實多、若江河之類是左形右聲、鳩鴿之類是右形左聲、草藻之類是上形下聲、娑娑之類是上聲下形、圃國之類是外形內聲、闕闕衡衡之類是外聲內形、此聲形之等有六也、依鄭義案孝經緯援神契、三皇無文則五帝已下始有文字、故說者多、以蒼頡為黃帝史、而造文字起在黃帝、於後滋益而多者也。

(六書を象形の等と云ふは、皆許氏の說文に依る、象形と云ふ者は日月の類是れ也、日月の形體に象り而して之を為る。會意と云ふ者は武信の類是れ也、人言を信と為し、止戈を武と為す、人の意を會合す、故に會意と云ふ也。轉注と云ふ者は考老の類是れ也、類は首を一にし文意相ひ受け左右相ひ注ぐ、故に轉注と名づく。處事と云ふ者は上下の類是れ也、人一の上に在るを上と為し、人一の下に在るを下と為す、各其の處有りて事其の宜を得る、故に處事と名づくる也。假借と名づくる者は令長の類是れ也、一字を兩用す、故に假借と名づくる也。六に曰く諧聲と云ふ者は即ち形聲と一也、江河の類是れ也、皆水を以て形を為し工可以て聲と為す、但書に六體有り形聲實に多し、江河の類の若きは是れ左形右聲、鳩鴿の類は是れ右形左聲、草藻の類は是れ上形下聲、娑娑の類は是れ上聲下形、圃國の類は是れ外形內聲、闕闕衡衡の類は是れ外聲內形、此れ聲形の等六有る也。鄭の義に依れば孝經緯援神契を案ずると、三皇文無ければ則ち五帝已下始めて文字有り、故に説く者多し、蒼頡を以て黃帝の史と為す、而して文字を造るは黃帝に在りて起こり、後に益滋えて而して多き者也。)

ちなみに、班固・許慎・鄭玄はいずれも古文学派の学者である。

古文学派は劉歆を祖としており、班固の「藝文誌」は劉歆の『七略』に基づいて作られたものだが、許慎・鄭玄も学問的系統をさかのぼると劉歆にたどりつく³。また、『周

3 劉歆—賈徽—賈逵—許慎
 \ 鄭興—鄭衆—鄭玄
 \ 『七略』—班固

礼』は一説に王莽の国師であった劉歆の偽作ともいわれており、ここからも六書説と劉歆の深い関係がうかがえる。下表で六書に関する記述のある主な資料の作者と年代を対応させた。

書名	作者	成立年代
『周礼』	周公旦（伝承）	戦国時代？
『七略』（散逸）	劉歆（？-23）	B. C. 6 年頃
『漢書』	班固（32-92）	78 年頃
『周礼解詁』（散逸）	鄭衆（？-83）	不明
『説文解字』	許慎	100 年頃
『周礼』注	鄭玄（127-200）	不明
『漢紀』	荀悦（148-209）	200 年
『漢書』注	顔師古（581-645）	641 年
『周礼』疏	賈公彦	650 年代？
『説文繫伝』	徐鍇（920-974）	不明
『説文解字注』	段玉裁（1735-1815）	1815 年

§3 六書の伝統的解釈

許慎の定義をもう一度見直してみたい。

象形：畫きて其の物を成し、體に隨ひて詰誦す。日、月是れ也。（絵を描くような方法で物の形を写し、物のさまにあわせて筆画を曲げる。「日」「月」がその例である。）⁴

指事：視て識る可く、察して意を見る。上、下是れ也。（その文字を見れば意味が分かり、考えれば字形の造意が理解できる。「上」「下」がその例である。）

会意：類を比して誼を合はせ、以て指搦を見わす。武、信是れ也。（意味範囲を示す要素をならべて意味を組み合わせ、そうして指し示す内容が分かるようにする。「武」「信」がその例である。）

形声：「事を以て名と爲し、譬を取りて相ひ成る。江、河是れ也。（ことからの属する領域によって区別し、同音または音の似ているものを加えて完成される。「江」「河」がその例である。）

転注：類一首を建て、同意相ひ受く。考、老是れ也。（文字が意味的まとまりごとに整理され、個別の字義が相互に関連しあう「老」「考」がその例である。）

仮借：「本其の字無く、聲に依りて事を託す。令、長是れ也。（元来は表現すべき文

4 各細目の（ ）内は解釈の一例であり、細目によっては異なる解釈をする学者もいる。ただしここでは分かりやすさを期して阿辻（1985）の解釈を参考に説明している。

字のない事物を、同じ発音の文字を利用して表す。「令」「長」がその例である。）

「六書」とはいても前四つは造字法、残り二つは応用法とするのが通説となっており、実際の造字原理は象形・指事・会意・形声の四書のみと考えてよいだろう⁵。「六」にこだわった理由として、阿辻（1985）は当時の思想的要請があった、つまり哲学的な必要性から無理矢理に「六」に当てはめたとしている。

後世の文字研究者たちには經典に根拠のある「六書」を絶対視する傾向があり、六書はその後長らく文字構成の基本原則として権威を持ち続けた。

下表は『説文解字』許序、『漢書』藝文誌、『周礼』疏の細目名や定義の比較である。許序に影響を受け、ほとんどを踏襲しており、場合によってその範囲内で補足を行っている。

書名	細目	定義	举例	
『説文解字』	象形	書成其物, 隨體詰詘	日・月	
	指事	視而可識, 察而可見	上・下	
	会意	比類合誼, 以見指撝	武・信	
	形声	以事爲名, 取譬相成	江・河	
	轉注	建類一首, 同意相受	考・老	
	仮借	本無其字, 依聲託事	令・長	
『漢書』注	象形	謂畫成其物, 隨體詰屈	日・月	
	象事(指事)	謂視而可識, 察而見意	上・下	
	象意(会意)	謂比類合誼, 以見指撝	武・信	
	象声(形声)	謂以事爲名, 取譬相成	江・河	
	轉注	謂建類一首, 同意相受	考・老	
	仮借	謂本無其字, 依聲託事	令・長	
『周礼』疏	象形	象…形體而爲之	日・月	
	指事	各有其處事得其宜	上・下	
	会意	AB 爲 C, 會合人意	武・信	
	諧声(形声)	以 A 爲形以 B 爲聲	左形右声	江・河
			右形左声	鳩・鵠
			上形下声	草・藻
			上声下形	婆・娑
			外形内声	圃・國
			外声内形	闕・闡・衡・銜
	轉注	類一首文意相受左右相注	考・老	
仮借	一字兩用	令・長		

5 従来の考え方を尊重し、六書の全細目はいずれも造字の原則であると主張する学者もいる。杜学知（1977）は転注・仮借も造字法であるとしている。

以上が、理論的な「六書」の概要である。次に少し実例を見ながら、それぞれの項目の内容を詳しく見てみよう。

§4 造字の過程と六書

象形 「文字」は具体的な事物を描いた図画から象形文字を経て発展してきたものだと考えられる。典型的なものでは、「人」や「鹿」の字形を原始の姿まで遡ると、それぞれ「ヒト」や「シカ」を象った絵文字であったことが分かる⁶。また、その物の一部特徴を捉えて描いたものもあり、例えば「牛」はその頭部のみを強調した象形文字である。

しかしながら、単語に対応する文字を作り出すにも、事物を写生的に書き表す方法だけでは限界がある。

- ①その意味が一般的な象形の方法を用いて表現するのが困難なもの（数詞・虚詞・事物の属性を示す単語、及びその他の抽象的な意味を表す単語）
- ②具体的な事物でも簡単な図画によって表現するのが困難なもの（各種の外見が似通った鳥・獣・虫・魚・草・木など、それぞれ異なった名称を持っているが簡単な図画によって細かな差異を表わすのは不可能なもの）

裘錫圭（1988）によれば、原始的な造字方法を用いることが困難であったのは、大きくこれら二つの状況下での文字化であった。文字によってこれらの単語を表現しようとする試みの結果、象形以外の新たな造字法が確立していった。

指事 象形文字が具体的な形のあるものを表したのに対し、抽象的概念を表そうとして作られたのが指事文字である。意味を暗示的、記号的に示す方法で、点や線を用いてその概念を表現する。資料によって解釈に違いはあるが、線の数で数の概念を表す「一」「二」「三」といった数字や、一本線の上に点を加えて「上」、一本線の下に点を加えて「下」の概念を表したこれらは指事文字に分類される場合が多い。他にも、木の象形の根本に点を加えて強調した「本」、枝の末端に点を加えて強調した「末」、刀の刃の部分に点を加えて強調した「刃」の字も指事文字に分類できる。

ただし、指事文字の多くは表そうとする単語に対して恣意的に字形を決めたものであり、記憶に不便で受容されにくいという側面をもつ。そのためか、他の細目よりも分類される漢字は少ないようである⁷。象形、指事の方法をもってしても、やはり表現できる単語は限られる。

会意 そこで、それぞれに意味を持つ既存の文字を複数組み合わせることで、新たに

6 ただし象形文字は単純に物の形を写したものと考えてしまうべきではない。森賀(2007)は、具象化の際に単純化あるいは逆に装飾が加えられるなどして、漢字を知らなくても意味がわかるというようなものではなくなることを指摘している。また、阿辻(2001)では手を胸の前に組み合わせてひざまずく人を象った象形文字「女」に「女性が男性に隷属させられていた時代の『男尊女卑』的思想が反映されている」ことを具体例に挙げ、象形文字の中にも「事物を見た目そのままに描くのではなく、描きだされるべき事物や概念の向こう側に存在する認識や価値観に基づいて文字を作るものがある」としている。

7 教育漢字1006字中、指事文字に分類される字は、漢和辞典等4資料の平均で1%程度。第3章を参照のこと。

意味を想起させる文字が作られた。会意文字である。

例えば、代表的な会意文字としては「木」という字を二つ組み合わせて「林」、三つ組み合わせて「森」の字が作られた。「木」を重ねてたくさんの樹木が生えている場所を表したのである。また、手をかざして目によく見ることを「手」と「目」を組み合わせて強調した「看」や、「鳥」に「口」の字を加えてさえずりを表現した「鳴」なども会意文字といえる。

ここで注目しておきたいのは、会意文字の構成要素「木」「手」「目」「口」「鳥」といった既存の象形文字が、本来の物の象形としてではなく、物の意味を表す符号として機能していることである。文字は時間の経過のなかで次第に象形性を失い、符号として機能するようになった。その結果、それら既存の文字は、意味や音を表す要素として新たな造字の材料にされていったのである。こうして文字の構成要素となったとき、意味を表すものを義符⁸と呼んでいる。

形声 文字とそれが表す意味との関係を明確にするために、既存の文字に義符を加えることで作られたのが形声文字である。意味を表す義符に対し、音を表す要素は声符⁹と呼ばれる。「視」は「見（義符）＋示（声符）」でまっすぐ見ることを表し、示の原義には直接の関係はない。「創」は「刀（義符）＋倉（声符）」で刃物を使って切れ目をつけることを表し、倉という原義とは関係がない。また、既存の文字に義符を加える方法のほかにも、後世には義符や声符を組み合わせる方法で形声文字が作られている。例えば、近代には元素記号を表すために新しい形声文字が作られており、ナトリウムを表す「鈉」、カルシウムを表す「鈣」も意味範囲の「金」と音を示す「内」「丐」を組み合わせた形声文字である。

以上で見たように、造字システムが確立し漢字が増えていく過程は、大きく二段階に分けられる。象形や指事のように基礎的な造りでそれ以上分割できない「単体字」の段階と、会意や形成のように既存の文字を複数組み合わせた「合成字」の段階である。『説文解字』序に中国の伝統的な文字学の世界では、前者を「文」、後者を「字」と呼び厳密に区別されるべき概念と考えられてきた。

象形	単体字	文
指事		
会意	合成字	字
形声		

森賀（2007）によれば、造字段階は大きくイコニック的造字段階とシンボリック的造字段階の二段階に分けられるという¹⁰。これらは「文」（単体字）と「字」（合成字）の造字の

8 意符、形旁ともいう。

9 音符、声旁ともいう。

10 記号媒体（記号）と書記対象（記号によって表されるもの）の関係が類似性にあるものをアイコン、約束性にあるものをシンボルという。

二段階に重なるように思われる。

単体字は、単純にその形と表現する意味とに類似性がある。初期の表記形態においては素直に「人の姿」に似せて「人」の字が書かれていた。一方の合成字は、既存の単体字を音や義で約束性を持たせ、構成要素として利用される。この段階では「人」が人の姿を模した字であることは問題ではなく、「人偏」が「人」に関する意味を示せること、あるいは [rjɛn] の音を示すことこそが重要なのである。

シンボリック造字段階が始まるとアイコン的に造字されることはなくなった。また、時間の経過に伴い、次第に実用性が重視され象形性を失っていくと、その時代の筆記形態に適した字形に変化していく過程で、アイコン的に作られた文字もシンボルとして用いられるようになった。現在使用されている文字はすべてシンボルといっても過言ではない。

形・音・義は漢字の三要素といわれるが、漢字は単に形・音・義で構成されているというだけでなく、その造字法によって、強く作用している要素が異なっていることがわかる。象形は三要素の中でも「形」に着目した造字である。指事は表現するべき「義」を表すための造字であるし、会意は「義」を組み合わせた造字、形声は「音」「義」を組み合わせた造字である。

さてここまで見てきたように、「造字の原則」である「六書」はここまでの「四書」で十分に説明できるように思われる。それではなぜ、転注、仮借を含めた「六書」という分類になっているのだろうか。実際には、転注、仮借を含めた六書分類はどのように実際に応用されているのだろうか。

3 漢和辞典の六書分類

§1 調査

六書分類は実際のところどのように認識され活用されているのか。それを調べるために、六書分類を採用している以下の資料を用いた。

『漢字源』藤堂明保、竹田晃、松本昭、加納喜光 学習研究社 2001

『字統』普及版 白川静 平凡社 2007

『角川新字源』改訂版 小川環樹、西田太一郎、赤塚忠 角川書店 1994

『漢字字源辞典』山田勝美、進藤英幸 角川書店 1995

調査対象とした漢字は、文部科学省『小学校学習指導要領』の付録『学年別漢字配当表』に基づき小学校で学習する漢字 1,006 字をサンプリングした。

漢字百科大事典や一般的な学習漢和辞典に収録されている親字が 10,000 ~ 14,000 字程度、2010 年（平成 22 年）11 月 30 日告示の改定常用漢字表に選ばれている字が 2,136 字という数字からみても、教育用漢字には最も基礎的で漢字使用頻度の高い漢字が厳選されていると考えた。小学校で習うことから六書分類は比較的一定しているだろうという仮説のもと、資料間に分類の異同があったものを抽出し、考察しようというのが当初の考えであった。調査結果は次の通りである。

教育漢字六書分類表

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
1	愛	13	4	会意兼形声	会意	形声	形声
2	惡	11	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
3	庄	5	5	会意兼形声	会意	会意形声	形声
4	安	6	3	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
5	案	10	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
6	暗	13	3	会意兼形声	形声	形声	形声
7	以	5	4	会意兼形声	象形	象形	会意に声をかねた字
8	衣	6	4	象形	象形	象形	象形
9	位	7	4	会意	会意	会意	形声
10	囿	7	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
11	医	7	3	会意	会意	形声	形声
12	委	8	3	会意	会意	形声	会意
13	胃	9	4	会意	会意	会意	象形
14	異	11	6	会意	象形	象形	形声
15	移	11	5	形声	会意	形声	形声
16	意	13	3	会意	会意	形声	形声
17	遭	15	6	会意兼形声	形声	形声	形声
18	域	11	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
19	育	8	3	会意	会意	形声	形声
20	一	1	1	指事	指事	指事	象形
21	引	4	2	会意	会意	形声	形声
22	印	6	4	会意	会意	会意	会意
23	因	6	5	会意	会意	会意	会意
24	員	10	3	会意	象形	会意形声	会意に声をかねた字
25	院	10	3	会意兼形声	形声	形声	会意
26	飲	12	3	会意兼形声	会意	会意	形声
27	右	5	1	会意兼形声	会意	会意形声	形声
28	宇	6	6	会意兼形声	形声	形声	形声
29	羽	6	2	象形	象形	象形	象形
30	雨	8	1	象形	象形	会意	象形
31	運	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
32	雲	12	2	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
33	永	5	5	象形	象形	象形	象形
34	泳	8	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
35	英	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
36	映	9	6	形声	形声	形声	形声
37	榮	9	4	会意兼形声	形声	形声	形声
38	營	12	5	会意	形声	形声	形声
39	衛	16	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
40	易	8	5	会意	会意	象形	会意

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
41	益	10	5	会意	会意	会意	象形
42	液	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
43	駅	14	3	会意兼形声	形声	形声	形声
44	円	4	1	会意兼形声	形声	会意形声	形声
45	延	8	6	会意	会意	形声	形声
46	沿	8	6	会意兼形声	形声	形声	形声
47	園	13	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
48	遠	13	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
49	塩	13	4	形声	形声	形声	形声
50	演	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
51	王	4	1	会意(象形)	象形	象形	象形
52	央	5	4	会意	象形	会意	形声
53	応	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
54	往	8	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
55	桜	10	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
56	横	15	3	会意兼形声	形声	形声	形声
57	屋	9	3	会意	会意	会意	会意
58	億	15	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
59	音	9	1	会意	会意	形声	会意
60	恩	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
61	温	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
62	下	3	1	指事	指事	指事	指事
63	化	4	3	会意	会意	会意	形声
64	火	4	1	象形	象形	象形	象形
65	加	5	4	会意	会意	形声	会意
66	可	5	5	会意	会意	形声	形声
67	仮	6	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
68	何	7	2	象形	形声	形声	形声
69	花	7	1	会意兼形声	形声	形声	形声
70	価	8	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
71	果	8	4	象形	象形	象形指事	象形
72	河	8	5	会意兼形声	形声	形声	形声
73	科	9	2	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
74	夏	10	2	象形	象形	象形	象形
75	家	10	2	会意	会意	形声	形声
76	荷	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
77	貨	11	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
78	過	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
79	歌	14	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
80	課	15	4	会意兼形声	形声	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
81	我	7	6	象形	仮借	象形	会意に声をかねた字
82	画	8	2	会意	不明	会意形声	形声
83	芽	8	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
84	賀	12	5	会意兼形声	会意	形声	形声
85	回	6	2	象形	象形	象形	会意に声をかねた字
86	灰	6	6	会意	形声	形声	象形
87	会	6	2	会意	形声	会意	形声
88	快	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
89	改	7	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
90	海	9	2	形声	形声	形声	形声
91	界	9	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
92	械	11	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
93	絵	12	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
94	開	12	3	会意	会意	会意	形声
95	階	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
96	解	13	5	会意	会意	形声	形声
97	貝	7	1	象形	象形	象形	象形
98	外	5	2	会意兼形声	会意	形声	形声
99	害	10	4	会意	会意	会意	会意
100	街	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
101	各	6	4	会意	会意	会意	形声
102	角	7	2	象形	象形	象形	象形
103	拡	8	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
104	革	9	6	象形	象形	象形	象形
105	格	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
106	覚	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
107	闊	14	6	会意兼形声	形声	形声	形声
108	確	15	5	形声	形声	形声	形声
109	学	8	1	会意兼形声	会意	会意形声	形声
110	栗	13	2	象形	象形	会意	形声
111	額	18	5	会意兼形声	形声	形声	形声
112	活	9	2	会意兼形声	形声	形声	形声
113	割	12	6	形声	形声	形声	形声
114	株	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
115	干	3	6	象形	象形	象形	象形
116	刊	5	5	会意兼形声	形声	形声	形声
117	完	7	4	会意兼形声	会意	形声	形声
118	官	8	4	会意	会意	会意	形声
119	卷	9	6	会意	会意	形声	会意に声をかねた字
120	看	9	6	会意	会意	会意	会意

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
121	寒	12	3	会意	会意	会意形声	形声
122	問	12	2	会意	会意	形声	形声
123	幹	13	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
124	感	13	3	会意兼形声	形声	形声	形声
125	澳	13	3	会意兼形声	形声	形声	形声
126	慣	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
127	管	14	4	会意兼形声	形声	形声	形声
128	関	14	4	会意兼形声	会意	形声	形声
129	館	16	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
130	簡	18	6	会意兼形声	形声	形声	形声
131	観	18	4	会意兼形声	形声	形声	形声
132	丸	3	2	会意	象形	形声	形声
133	岸	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
134	岩	8	2	会意	象形	会意	会意
135	眼	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
136	顔	18	2	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
137	願	19	4	会意兼形声	形声	形声	形声
138	危	6	6	会意	形声	会意形声	会意に声をかねた字
139	机	6	6	形声	形声	会意形声	形声
140	気	6	1	会意兼形声	形声	形声	形声
141	希	7	4	会意	象形	会意	象形
142	汽	7	2	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
143	季	8	4	会意	会意	会意	形声
144	紀	9	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
145	記	10	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
146	起	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
147	婦	10	2	形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
148	基	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
149	寄	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
150	規	11	5	会意	会意	形声	形声
151	喜	12	4	会意	会意	会意	形声
152	揮	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
153	期	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
154	貴	12	6	会意	会意	会意形声	形声
155	旗	14	4	会意兼形声	形声	形声	形声
156	器	15	4	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
157	機	16	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
158	技	7	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
159	義	13	5	会意兼形声	会意	形声	形声
160	疑	14	6	会意兼形声	象形	会意形声	会意に声をかねた字

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
161	議	20	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
162	客	9	3	会意兼形声	会意	会意形声	形声
163	逆	9	5	会意兼形声	形声	形声	形声
164	九	2	1	象形	象形	象形	象形
165	久	3	5	会意	象形	象形指事	会意
166	弓	3	2	象形	象形	象形	象形
167	旧	5	5	形声	会意	形声	形声
168	休	6	1	会意	会意	形声	形声
169	吸	6	6	会意兼形声	形声	形声	形声
170	求	7	4	象形	象形	象形	象形
171	究	7	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
172	泣	8	4	会意	形声	形声	形声
173	急	9	3	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
174	級	9	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
175	宮	10	3	会意	会意	会意	会意
176	救	11	4	会意兼形声	会意	形声	形声
177	球	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
178	給	12	4	会意	形声	会意形声	形声
179	牛	4	2	象形	象形	象形	象形
180	去	5	3	象形	会意	会意	象形
181	居	8	5	会意兼形声	会意	形声	形声
182	拳	10	4	会意兼形声	会意	形声	形声
183	許	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
184	魚	11	2	象形	象形	象形	象形
185	漁	14	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
186	共	6	4	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
187	京	8	2	象形	象形	象形	象形
188	供	8	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
189	協	8	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
190	胸	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
191	強	11	2	会意兼形声	会意	会意形声	形声
192	教	11	2	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
193	郷	11	6	会意兼形声	会意	会意	会意に声をかねた字
194	境	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
195	橋	16	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
196	鏡	19	4	会意兼形声	形声	形声	形声
197	競	20	4	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
198	業	13	3	象形	象形	象形	象形
199	曲	6	3	象形	象形	象形	象形
200	局	7	3	会意	会意	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
201	極	12	4	会意兼形声	象形	形声	形声
202	玉	5	1	象形	象形	象形	象形
203	均	7	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
204	近	7	2	会意兼形声	形声	形声	形声
205	金	8	1	会意兼形声	象形	形声	形声
206	勤	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
207	筋	12	6	会意	象形	会意	会意
208	禁	13	5	会意	会意	会意形声	形声
209	銀	14	3	会意兼形声	形声	形声	形声
210	区	4	3	会意	会意	会意	会意
211	句	5	5	会意	会意	形声	形声
212	苦	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
213	具	8	3	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
214	空	8	1	会意兼形声	形声	会意形声	形声
215	君	7	3	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
216	訓	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
217	軍	9	4	会意	象形	会意形声	形声
218	郡	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
219	群	13	5	会意兼形声	形声	形声	形声
220	兄	5	2	象形	会意	象形指事	形声
221	形	7	2	会意兼形声	会意	会意形声	形声
222	系	7	6	会意	象形	象形指事	象形
223	徑	8	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
224	係	9	3	会意兼形声	会意	会意形声	形声
225	型	9	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
226	計	9	2	会意	会意	会意	会意
227	経	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
228	敬	12	6	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
229	景	12	4	形声	形声	形声	形声
230	軽	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
231	警	19	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
232	芸	7	4	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
233	劇	15	6	会意兼形声	会意	形声	形声
234	激	16	6	会意兼形声	形声	形声	形声
235	欠	4	4	会意兼形声	形声	象形・形声	象形・形声
236	穴	5	6	会意	象形	象形	形声
237	血	6	3	象形	会意	会意	象形
238	決	7	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
239	結	12	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
240	潔	15	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
241	月	4	1	象形	象形	象形	象形
242	犬	4	1	象形	象形	象形	象形
243	件	6	5	会意	会意	形声	形声
244	見	7	1	会意	象形	会意	会意
245	券	8	5	会意兼形声	会意	形声	形声
246	建	9	4	会意	会意	会意	会意
247	研	9	3	会意兼形声	形声	形声	形声
248	鼎	9	3	指事(会意)	象形(会意)	会意形声	象形
249	健	11	4	会意兼形声	形声	形声	形声
250	險	11	5	会意	形声	形声	形声
251	檢	12	5	会意	形声	形声	形声
252	絹	13	6	会意兼形声	形声	形声	形声
253	權	15	6	形声	形声	形声	形声
254	憲	16	6	会意兼形声	形声	形声	形声
255	驗	18	4	会意兼形声	形声	形声	形声
256	元	4	2	象形	象形	会意	会意
257	言	7	2	会意	会意	形声	形声
258	限	9	5	会意兼形声	会意	形声	形声
259	原	10	2	会意	象形	会意	会意
260	現	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
261	減	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
262	源	13	6	会意兼形声	形声	会意形声	象形
263	蔽	17	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
264	己	3	6	象形	象形	象形	象形
265	戸	4	2	象形	象形	象形	象形
266	古	5	2	象形	会意	象形	象形
267	呼	8	6	会意兼形声	形声	形声	形声
268	固	8	4	会意兼形声	会意	会意形声	形声
269	故	9	5	会意兼形声	会意	形声	会意に声をかねた字
270	個	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
271	庫	10	3	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
272	湖	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
273	五	4	1	指事	会意(象形)	象形	象形
274	午	4	2	象形	象形	象形	象形
275	後	9	2	会意	会意	会意	形声
276	語	14	2	会意兼形声	形声	形声	形声
277	誤	14	6	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
278	護	20	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
279	口	3	1	象形	象形	象形	象形
280	工	3	2	指事	象形	象形	象形

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
281	公	4	2	会意	象形	会意	会意
282	功	5	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
283	広	5	2	会意兼形声	形声	形声	形声
284	交	6	2	象形	象形	象形	象形
285	光	6	2	会意	会意	形声	形声
286	向	6	3	会意	会意	象形	象形
287	后	6	6	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
288	好	6	4	会意	会意	会意	形声
289	考	6	2	会意兼形声	形声	形声	形声
290	行	6	2	象形	象形	象形	象形
291	孝	7	6	会意	会意	会意	形声
292	効	8	5	会意兼形声	会意	形声	形声
293	幸	8	3	象形	象形	会意形声・象形	会意に声をかねた字
294	厚	9	5	会意	会意	形声	形声
295	皇	9	6	会意兼形声	象形	会意	象形・形声
296	紅	9	6	形声	形声	形声	形声
297	候	10	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
298	校	10	1	会意兼形声	形声	形声	形声
299	耕	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
300	航	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
301	降	10	6	会意兼形声	会意	会意形声	会意
302	高	10	2	象形	会意	象形	象形
303	康	11	4	会意兼形声	会意	会意形声	会意
304	黄	11	2	象形	象形	象形指事	象形
305	港	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
306	鉦	13	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
307	構	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
308	興	16	5	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
309	鋼	16	6	会意兼形声	形声	形声	形声
310	講	17	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
311	号	5	3	会意	会意	形声	形声
312	合	6	2	会意	象形	会意	形声
313	告	7	4	会意	象形	会意	形声
314	谷	7	2	会意	象形	会意形声	会意に声をかねた字
315	刻	8	6	会意兼形声	形声	形声	形声
316	国	8	2	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
317	黒	11	2	会意	会意	会意	象形
318	穀	14	6	会意兼形声	形声	形声	形声
319	骨	10	6	会意兼形声	象形	会意形声	会意
320	今	4	2	会意	假借(象形)	会意	会意

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
321	困	7	6	会意	象形	会意	会意
322	根	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
323	混	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
324	左	5	1	会意	会意	会意形声	形声
325	查	9	5	会意兼形声	形声	形声	形声
326	砂	9	6	会意兼形声	形声	形声	象形
327	差	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
328	座	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
329	才	3	2	象形	象形	象形	象形
330	再	6	5	指事	象形	象形	会意
331	災	7	5	会意兼形声	会意	会意形声	形声
332	妻	8	5	会意	象形	会意形声	形声
333	採	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意
334	济	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
335	祭	11	3	会意	会意	会意形声	会意
336	細	11	2	会意兼形声	形声	形声	形声
337	菜	11	4	会意兼形声	不明	形声	形声
338	最	12	4	会意	会意	会意形声	形声
339	裁	12	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
340	際	14	5	会意兼形声	会意	形声	形声
341	在	6	5	会意兼形声	会意	形声	会意に声をかねた字
342	材	7	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
343	財	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
344	罪	13	5	会意	会意	形声	形声
345	作	7	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
346	昨	9	4	形声	形声	形声	形声
347	策	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
348	冊	5	6	象形	象形	象形	象形
349	札	5	4	会意	会意	形声	形声
350	刷	8	4	会意	会意	会意形声	形声
351	殺	10	4	会意	会意	会意形声	形声
352	察	14	4	会意兼形声	会意	形声	形声
353	雜	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
354	皿	5	3	象形	象形	象形	象形
355	三	3	1	指事	指事	指事	会意
356	山	3	1	象形	象形	象形	象形
357	參	8	4	象形	会意	会意形声	象形・形声
358	蚕	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
359	産	11	4	会意	会意	形声	形声
360	散	12	4	会意	会意	会意形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
361	算	14	2	会意	会意	会意	形声
362	酸	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
363	贊	15	5	会意	会意	会意形声	形声
364	残	10	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
365	士	3	4	象形	象形	象形	象形
366	子	3	1	象形	象形	象形	象形
367	支	4	5	会意	会意	会意	象形
368	止	4	2	象形	象形	象形指事	象形
369	氏	4	4	象形	象形	象形	象形
370	仕	5	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
371	史	5	4	会意	会意	会意	会意
372	司	5	4	会意	会意	会意	形声
373	四	5	1	会意	假借(指事)	象形	象形
374	市	5	2	会意兼形声	象形	会意形声	会意に声をかねた字
375	矢	5	2	象形	象形	象形	象形
376	死	6	3	会意	会意	会意	形声
377	糸	6	1	会意	会意	象形	象形
378	至	6	6	会意	会意	象形指事	象形
379	志	7	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
380	私	7	6	会意兼形声	会意	会意	形声
381	使	8	3	会意	形声	会意形声	会意に声をかねた字
382	始	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
383	姉	8	2	会意兼形声	形声	形声	形声
384	枝	8	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
385	姿	9	6	会意兼形声	形声	形声	形声
386	思	9	2	会意	形声	形声	会意に声をかねた字
387	指	9	3	形声	形声	形声	形声
388	師	10	5	会意	会意	会意形声	形声
389	紙	10	2	会意兼形声	形声	形声	形声
390	視	11	6	形声	形声	形声	形声
391	詞	12	6	形声	形声	会意形声	形声
392	齒	12	3	会意兼形声	形声	形声	象形
393	試	13	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
394	詩	13	3	会意兼形声	形声	形声	形声
395	資	13	5	会意兼形声	形声	形声	形声
396	飼	13	5	形声	形声	会意形声	形声
397	誌	14	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
398	示	5	5	象形	象形	象形指事	象形
399	字	6	1	会意兼形声	会意	会意形声	形声
400	寺	6	2	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
401	次	6	3	会意	象形	形声	形声
402	耳	6	1	象形	象形	象形	象形
403	自	6	2	象形	象形	象形	象形
404	似	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
405	児	7	4	象形	象形	象形指事	形声
406	事	8	3	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
407	治	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
408	持	9	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
409	時	10	2	会意兼形声	形声	形声	形声
410	辭	13	4	会意	会意	会意形声	形声
411	磁	14	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
412	式	6	3	会意兼形声	会意	形声	形声
413	識	19	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
414	七	2	1	指事	假借(象形)	指事	指事
415	失	5	4	会意	象形	形声	形声
416	室	9	2	会意兼形声	会意	会意形声	形声
417	質	15	5	会意	会意	形声	形声
418	実	8	3	会意	会意	形声	形声
419	写	5	3	形声	会意	形声	形声
420	社	7	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
421	車	7	1	象形	象形	象形	象形
422	舎	8	5	会意兼形声	会意	会意形声	形声
423	者	8	3	象形	会意	会意	会意に声をかねた字
424	射	10	6	会意	会意	会意	象形
425	捨	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
426	謝	17	5	会意兼形声	形声	形声	形声
427	尺	4	6	象形	象形	象形	象形
428	借	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
429	若	8	6	象形	象形	会意形声	形声
430	弱	10	2	会意	会意	会意	形声
431	手	4	1	象形	象形	象形	象形
432	主	5	3	象形	象形	象形	象形
433	守	6	3	会意	会意	会意形声	形声
434	取	8	3	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
435	首	9	2	象形	象形	象形	象形
436	酒	10	3	会意	形声	形声	会意に声をかねた字
437	種	14	4	会意兼形声	形声	形声	形声
438	受	8	3	形声	会意	形声	形声
439	授	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
440	樹	16	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
441	収	4	6	会意	会意	形声	形声
442	州	6	3	象形	象形	象形指事	象形
443	周	8	4	会意	会意	会意形声	形声
444	宗	8	6	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
445	拾	9	3	会意	形声	形声	形声
446	秋	9	2	会意	会意	形声	形声
447	修	10	5	会意	会意	会意形声	形声
448	終	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
449	習	11	3	会意	会意	形声	形声
450	週	11	2	形声	形声	形声	形声
451	就	12	6	会意	会意	形声	形声
452	衆	12	6	会意	会意	会意形声	会意
453	集	12	3	会意	会意	会意	象形
454	十	2	1	指事	指事	象形	象形
455	住	7	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
456	重	9	3	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
457	従	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
458	縦	16	6	会意兼形声	形声	形声	形声
459	祝	9	4	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
460	宿	11	3	会意兼形声	会意	会意	会意
461	縮	17	6	会意兼形声	形声	形声	形声
462	熟	15	6	会意	形声	会意形声	形声
463	出	5	1	会意	象形	会意	会意に声をかねた字
464	述	8	5	会意兼形声	会意	会意形声	形声
465	術	11	5	会意兼形声	会意	形声	形声
466	春	9	2	会意兼形声	形声	会意形声	会意
467	純	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
468	順	12	4	会意	形声	形声	形声
469	準	13	5	会意兼形声	形声	形声	形声
470	処	5	6	会意	会意	会意	形声
471	初	7	4	会意	会意	会意	会意
472	所	8	3	形声	会意	形声	形声
473	書	10	2	形声	会意	形声	形声
474	暑	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
475	署	13	6	形声	形声	形声	形声
476	諸	15	6	会意兼形声	形声	形声	形声
477	女	3	1	象形	象形	象形	象形
478	助	7	3	会意兼形声	会意	会意形声	形声
479	序	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
480	除	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
481	小	3	1	象形	象形	指事	象形
482	少	4	2	会意	象形	会意形声	象形
483	招	8	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
484	承	8	5	会意	会意	会意形声	形声
485	松	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
486	昭	9	3	会意兼形声	形声	形声	形声
487	将	10	6	会意兼形声	会意	会意形声	形声
488	消	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
489	笑	10	4	会意	象形	形声	形声
490	唱	11	4	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
491	商	11	3	形声	会意	形声	形声
492	章	11	3	会意	象形	象形	象形
493	勝	12	3	会意	形声	形声	形声
494	焼	12	4	会意	形声	形声	形声
495	証	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
496	象	12	4	象形	象形	象形	象形
497	傷	13	6	会意兼形声	形声	形声	形声
498	照	13	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
499	障	14	6	形声	形声	形声	形声
500	賞	15	4	形声	形声	会意形声	形声
501	上	3	1	指事	指事	指事	指事
502	条	7	5	会意兼形声	会意	形声	形声
503	状	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
504	乘	9	3	会意	会意	会意	象形
505	城	9	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
506	常	11	5	形声	形声	形声	形声
507	情	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
508	場	12	2	会意兼形声	形声	形声	形声
509	蒸	13	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
510	色	6	2	象形	会意	会意	形声
511	食	9	2	会意	象形	会意	形声
512	植	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
513	織	18	5	会意兼形声	形声	形声	形声
514	職	18	5	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
515	心	4	2	象形	象形	象形	象形
516	申	5	3	会意	象形	象形	象形
517	臣	7	4	象形	象形	象形	象形
518	身	7	3	象形	象形	象形指事	象形・形声
519	信	9	4	会意	会意	会意	形声
520	神	9	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
521	真	10	3	会意	会意	会意	不明
522	針	10	6	形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
523	深	11	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
524	進	11	3	会意	形声	形声	形声
525	森	12	1	会意	会意	会意	会意
526	新	13	2	会意兼形声	会意	会意形声	形声
527	親	16	2	会意兼形声	会意	形声	形声
528	人	2	1	象形	象形	象形	象形
529	仁	4	6	会意兼形声	会意	会意形声	形声
530	囟	7	2	会意	会意	会意	形声
531	水	4	1	象形	象形	象形	象形
532	垂	8	6	会意	会意	形声	形声
533	推	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
534	数	13	2	会意	会意	形声	形声
535	寸	3	6	会意	会意	象形指事	会意
536	世	5	3	会意	象形	会意	会意
537	正	5	1	会意	会意	会意	象形
538	生	5	1	会意	象形	象形	指事
539	成	6	4	会意兼形声	会意	形声	形声
540	西	6	2	象形	仮借	象形	象形
541	声	7	2	会意(象形)	会意	会意形声	会意に声をかねた字
542	制	8	5	会意	会意	会意	会意
543	性	8	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
544	青	8	1	会意	形声	会意形声	会意に声をかねた字
545	政	9	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
546	星	9	2	会意兼形声	形声	形声	形声
547	省	9	4	会意	形声	形声	形声
548	清	11	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
549	盛	11	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
550	晴	12	2	会意兼形声	形声	形声	形声
551	勢	13	5	会意	会意	会意形声	形声
552	聖	13	6	会意兼形声	会意	形声	形声
553	誠	13	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
554	精	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
555	製	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
556	静	14	4	会意兼形声	会意	形声	形声
557	整	16	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
558	税	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
559	夕	3	1	象形	象形	象形	象形
560	石	5	1	象形	会意	会意	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
561	赤	7	1	会意	会意	会意	会意
562	昔	8	3	会意	仮借	形声	形声
563	席	10	4	形声	会意	形声	象形
564	責	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
565	積	16	4	会意兼形声	形声	形声	形声
566	績	17	5	会意兼形声	形声	形声	形声
567	切	4	2	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
568	折	7	4	会意	会意	会意	会意
569	接	11	5	会意兼形声	形声	形声	形声
570	設	11	5	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
571	雪	11	2	会意	象形	形声	会意
572	節	13	4	会意	形声	形声	形声
573	説	14	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
574	舌	6	5	会意	象形	会意	会意
575	絶	12	5	会意	形声	形声	象形
576	千	3	1	仮借	形声	形声	会意に声をかねた字
577	川	3	1	象形	象形	象形	象形
578	先	6	1	会意	会意	会意	形声
579	宣	9	6	会意兼形声	会意	形声	形声
580	専	9	6	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
581	泉	9	6	象形	象形	象形	象形
582	浅	9	4	会意兼形声	形声	形声	形声
583	洗	9	6	会意兼形声	形声	形声	形声
584	染	9	6	会意	会意	会意	形声
585	船	11	2	会意兼形声	形声	形声	形声
586	戦	13	4	会意兼形声	会意	形声	形声
587	銭	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
588	線	15	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
589	選	15	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
590	全	6	3	会意	象形	会意形声	会意
591	前	9	2	会意兼形声	会意	形声	形声
592	善	12	6	会意	会意	形声	会意
593	然	12	4	会意	会意	形声	形声
594	祖	9	5	会意兼形声	形声	形声	形声
595	素	10	5	会意	象形	形声	形声
596	組	11	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
597	早	6	1	象形	仮借	会意	形声
598	争	6	4	会意	会意	会意	会意
599	走	7	2	会意	象形	会意	形声
600	奏	9	6	会意	会意	会意	象形

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
601	相	9	3	会意	会意	形声	形声
602	草	9	1	形声	形声	形声	形声
603	送	9	3	会意	形声	形声	形声
604	倉	10	4	会意	象形	形声	形声
605	巢	11	4	会意	象形	会意	形声
606	窓	11	6	会意兼形声	形声	会意形声	象形
607	創	12	6	形声	形声	形声	形声
608	装	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
609	想	13	3	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
610	層	14	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
611	総	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
612	操	16	6	会意兼形声	形声	形声	形声
613	造	10	5	会意	会意	形声	形声
614	像	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
615	増	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
616	蔵	15	6	形声	形声	形声	形声
617	臓	19	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
618	束	7	4	会意	象形	会意	象形
619	足	7	1	象形	象形	象形指事	象形
620	則	9	5	会意	会意	会意	形声
621	息	10	3	会意	会意	会意	形声
622	速	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
623	側	11	4	会意兼形声	形声	形声	形声
624	測	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
625	族	11	3	会意	会意	会意	形声
626	属	12	5	会意兼形声	会意	形声	形声
627	続	13	4	会意兼形声	形声	形声	形声
628	卒	8	4	会意	象形	会意	指事
629	率	11	5	会意	象形	象形指事	象形
630	存	6	6	会意	会意	形声	形声
631	村	7	1	会意兼形声	形声	形声	形声
632	孫	10	4	会意	会意	会意	形声
633	尊	12	6	会意	会意	会意	形声
634	損	13	5	会意	会意	形声	形声
635	他	5	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
636	多	6	2	会意	会意	会意	会意
637	打	5	3	会意兼形声	形声	形声	形声
638	太	4	2	会意	形声	象形指事	会意
639	対	7	3	会意	会意	会意	形声
640	体	7	2	形声(会意)	形声	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
641	待	9	3	会意兼形声	形声	形声	形声
642	退	9	5	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
643	帯	10	4	会意	象形	会意	会意
644	貸	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
645	隊	12	4	会意兼形声	会意	形声	形声
646	態	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
647	大	3	1	象形	象形	象形	象形
648	代	5	3	形声	形声	形声	形声
649	台	5	2	会意兼形声	会意	形声	形声
650	第	11	3	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
651	題	18	3	会意兼形声	形声	形声	形声
652	宅	6	6	会意兼形声	形声	形声	形声
653	達	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
654	担	8	6	形声	形声	形声	形声
655	单	9	4	象形	象形	象形	形声
656	炭	9	3	会意	会意	形声	形声
657	探	11	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
658	短	12	3	会意	形声	形声	形声
659	誕	15	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
660	団	6	5	会意兼形声	形声	形声	形声
661	男	7	1	会意	会意	会意	形声
662	段	9	6	会意兼形声	会意	形声	形声
663	断	11	5	会意	会意	会意	会意
664	暖	13	6	会意	形声	形声	形声
665	談	15	3	会意兼形声	形声	形声	形声
666	地	6	2	会意兼形声	形声	形声	形声
667	池	6	2	会意兼形声	形声	形声	形声
668	知	8	2	会意	会意	形声	形声
669	值	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
670	置	13	4	会意兼形声	形声	形声	形声
671	竹	6	1	象形	象形	象形	象形
672	築	16	5	会意兼形声	形声	形声	形声
673	茶	9	2	会意兼形声	形声	形声	形声
674	着	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
675	中	4	1	象形	象形	指事	会意
676	仲	6	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
677	虫	6	1	象形(会意)	会意	象形	象形
678	宙	8	6	形声	形声	形声	形声
679	忠	8	6	会意兼形声	形声	形声	形声
680	注	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
681	昼	9	2	会意	会意	会意	形声
682	柱	9	3	会意兼形声	形声	形声	形声
683	著	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
684	貯	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
685	丁	2	3	象形	象形	象形	象形
686	疋	5	6	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
687	兆	6	4	象形	象形	象形	象形
688	町	7	1	会意兼形声	形声	形声	形声
689	長	8	2	象形	象形	象形	象形
690	帳	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
691	張	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
692	頂	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
693	鳥	11	2	象形	象形	象形	象形
694	朝	12	2	会意→形声	会意	形声	形声
695	腸	13	4	形声	形声	形声	形声
696	潮	15	6	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
697	調	15	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
698	直	8	2	会意	会意	象形指事	形声
699	賃	13	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
700	追	9	3	形声	会意	形声	形声
701	通	10	2	会意兼形声	形声	形声	形声
702	痛	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
703	低	7	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
704	弟	7	2	指事	象形	会意	象形
705	定	8	3	会意兼形声	会意	形声	形声
706	底	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
707	庭	10	3	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
708	停	11	4	会意兼形声	形声	形声	形声
709	提	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
710	程	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
711	的	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
712	笛	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
713	適	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
714	敵	15	5	形声	形声	形声	形声
715	鉄	13	3	形声(会意)	形声	形声	形声
716	天	4	1	指事	象形	象形指事	象形
717	典	8	4	会意	会意	会意	象形
718	店	8	2	会意兼形声	形声	形声	形声
719	点	9	2	会意兼形声	形声	形声	形声
720	展	10	6	会意	会意	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
721	転	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
722	田	5	1	象形	象形	象形	象形
723	伝	6	4	会意兼形声	会意	形声	形声
724	電	13	2	会意兼形声	会意	会意形声	会意
725	徒	10	4	形声	形声	会意形声	形声
726	都	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
727	土	3	1	象形	象形	象形	象形
728	努	7	4	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
729	度	9	3	形声	会意	形声	形声
730	刀	2	2	象形	象形	象形	象形
731	冬	5	2	象形	象形	形声	形声
732	灯	6	4	会意兼形声	形声	形声	形声
733	当	6	2	形声	形声	形声	形声
734	投	7	3	会意兼形声	会意	会意形声	形声
735	豆	7	3	象形	象形	象形	象形
736	東	8	2	象形	仮借(象形)	象形	象形
737	島	10	3	会意兼形声	会意	形声	形声
738	討	10	6	形声	形声	形声	形声
739	党	10	6	形声	形声	形声	形声
740	湯	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
741	登	12	3	会意	会意	形声	形声
742	答	12	2	会意	形声	会意形声	形声
743	等	12	3	形声	形声	形声	形声
744	統	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
745	糖	16	6	形声	形声	形声	形声
746	頭	16	2	会意兼形声	形声	形声	形声
747	同	6	2	会意	会意	会意	形声
748	動	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
749	堂	11	4	会意兼形声	形声	形声	形声
750	童	12	3	会意兼形声	形声	形声	形声
751	道	12	2	会意兼形声	会意	形声	形声
752	働	13	4	会意兼形声	形声	会意形声	会意
753	銅	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
754	導	15	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
755	特	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
756	得	11	4	会意兼形声	会意	会意形声	形声
757	徳	14	5	会意兼形声	会意	形声	形声
758	毒	8	4	会意	象形	形声	形声
759	独	9	5	会意兼形声	形声	形声	形声
760	読	14	2	会意兼形声	形声	形声	形声
761	届	8	6	会意兼形声	会意	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
762	内	4	2	会意	象形	会意形声	象形
763	南	9	2	会意兼形声	象形	形声	形声
764	難	18	6	会意	会意	形声	形声
765	二	2	1	指事	指事	会意	象形
766	肉	6	2	象形	象形	象形	象形
767	日	4	1	象形	象形	象形	象形
768	入	2	1	指事	象形	象形	象形
769	乳	8	6	会意	会意	会意	会意
770	任	6	5	会意兼形声	形声	形声	形声
771	認	14	6	会意兼形声	形声	形声	不明
772	熱	15	4	形声	会意	形声	不明
773	年	6	1	会意兼形声	会意	形声	形声
774	念	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声
775	燃	16	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
776	納	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
777	能	10	5	会意兼形声	象形	象形	形声
778	腦	11	6	会意兼形声	会意	会意形声	形声
779	農	13	3	会意	会意	会意	会意
780	波	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
781	派	9	6	会意兼形声	形声	会意形声	不明
782	破	10	5	形声	形声	形声	形声
783	馬	10	2	象形	象形	象形	象形
784	扌	8	6	会意	会意	会意形声	形声
785	背	9	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
786	肺	9	6	会意兼形声	形声	形声	形声
787	俳	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
788	配	10	3	会意	会意	形声	形声
789	敗	11	4	会意兼形声	会意	形声	形声
790	壳	7	2	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
791	倍	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
792	梅	10	4	会意兼形声	形声	形声	会意
793	買	12	2	会意	会意	会意形声	形声
794	白	5	1	象形	象形	象形	象形
795	博	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
796	麦	7	2	会意兼形声	会意	会意	形声
797	箱	15	3	会意兼形声	形声	形声	形声
798	畑	9	3	会意	不明	会意	会意
799	八	2	1	指事	指事	指事	指事
800	癸	9	3	会意兼形声	会意	形声	形声
801	反	4	3	会意	会意	形声	形声
802	半	5	2	会意	象形	会意形声	会意に声をかねた字

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
803	犯	5	5	会意兼形声	会意	形声	形声
804	判	7	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
805	坂	7	3	会意兼形声	形声	形声	形声
806	板	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
807	版	8	5	会意兼形声	形声	形声	形声
808	班	10	6	会意	形声	会意	形声
809	飯	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
810	晚	12	6	形声	形声	形声	形声
811	番	12	2	会意	象形	会意形声	会意に声をかねた字
812	比	4	5	会意	会意	会意	象形
813	皮	5	3	会意	象形	会意	形声
814	否	7	6	形声	会意	会意形声	形声
815	批	7	6	会意兼形声	形声	形声	形声
816	肥	8	5	形声	会意	形声	形声
817	非	8	5	象形	象形	象形指事	象形
818	飛	9	4	象形	象形	象形	象形
819	秘	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
820	悲	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
821	費	12	4	会意兼形声	形声	形声	形声
822	美	9	3	会意	象形	会意	会意
823	備	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
824	鼻	14	3	形声	形声	形声	形声
825	必	5	4	象形	象形	象形指事	会意
826	筆	12	3	会意	会意	会意形声	会意
827	百	6	1	形声	指事	形声	会意に声をかねた字
828	氷	5	3	会意兼形声	象形	会意形声	会意
829	表	8	3	会意	会意	形声	形声
830	俵	10	5	会意兼形声	形声	形声	形声
831	票	11	4	会意	会意	形声	形声
832	評	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
833	標	15	4	会意兼形声	形声	形声	形声
834	秒	9	3	会意	会意	会意形声	形声
835	病	10	3	会意兼形声	形声	形声	形声
836	品	9	3	会意	会意	会意	会意
837	貧	11	5	会意兼形声	会意	会意形声	形声
838	不	4	4	象形	假借(象形)	象形	象形
839	夫	4	4	象形	象形	象形指事	会意
840	父	4	2	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
841	付	5	4	会意	会意	形声	形声
842	布	5	5	形声	形声	形声	形声
843	府	8	4	会意兼形声	形声	形声	形声

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
844	負	9	3	会意	会意	形声	会意に声をかねた字
845	婦	11	5	会意	形声	会意形声	形声
846	富	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
847	武	8	5	会意	会意	形声	形声
848	部	11	3	会意兼形声	形声	形声	形声
849	風	9	2	会意兼形声	形声	形声	形声
850	服	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
851	副	11	4	形声	形声	形声	形声
852	復	12	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
853	福	13	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
854	腹	13	6	会意兼形声	形声	形声	形声
855	複	14	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
856	仏	4	5	形声	形声	形声	形声
857	物	8	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
858	粉	10	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
859	奮	16	6	会意	会意	会意	会意に声をかねた字
860	分	4	2	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
861	文	4	1	象形	象形	象形	象形
862	聞	14	2	会意兼形声	形声	形声	形声
863	平	5	3	象形	会意	象形	象形
864	兵	7	4	会意	会意	会意	会意
865	並	8	6	会意	会意	会意	会意
866	陸	10	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
867	閉	11	6	会意	会意	会意	会意
868	米	6	2	象形	象形	象形	象形
869	別	7	4	会意	会意	会意	会意
870	片	4	6	象形	象形	象形指事	象形
871	辺	5	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
872	返	7	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
873	変	9	4	会意	会意	形声	形声
874	編	15	5	会意兼形声	形声	形声	形声
875	弁	5	5	会意	形声	会意・形声	象形・形声
876	便	9	4	会意	会意	形声	形声
877	勉	10	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
878	歩	8	2	会意	会意	会意	象形
879	保	9	5	会意兼形声	会意	会意	象形
880	補	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
881	母	5	2	象形	象形	象形指事	象形
882	墓	13	5	会意兼形声	形声	会意形声	形声
883	暮	14	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
884	方	4	2	象形	象形	象形	象形

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字源辞典』
885	包	5	4	象形	象形	会意	会意
886	宝	8	6	会意	形声	形声	形声
887	放	8	3	会意兼形声	会意	会意	形声
888	法	8	4	会意	会意	形声	形声
889	訪	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
890	報	12	5	会意	会意	会意形声	形声
891	豊	13	5	会意兼形声	象形	会意形声	形声
892	亡	3	6	会意	象形	会意	会意
893	忘	7	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
894	防	7	5	会意兼形声	形声	形声	形声
895	望	11	4	会意兼形声	形声	形声	形声
896	棒	12	6	会意兼形声	形声	形声	形声
897	質	12	5	会意兼形声	形声	形声	形声
898	暴	15	5	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
899	北	5	2	会意	会意	会意	象形
900	木	4	1	象形	象形	象形	象形
901	牧	8	4	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
902	本	5	1	指事	指事	象形指事	象形
903	每	6	2	会意兼形声	象形	象形指事	形声
904	妹	8	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
905	枚	8	6	会意	会意	会意形声	会意
906	幕	13	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
907	末	5	4	指事	指事	象形指事	象形
908	万	3	2	象形	象形	象形	象形
909	満	12	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
910	未	5	4	象形	象形	象形指事	象形
911	味	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
912	密	11	6	会意兼形声	会意	形声	形声
913	脈	10	4	会意兼形声	会意	会意形声	形声
914	民	5	4	象形	象形	象形	象形
915	務	11	5	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
916	無	12	4	形声	假借	象形	形声
917	夢	13	5	会意	会意	形声	形声
918	名	6	1	会意	会意	会意形声	会意
919	命	8	3	会意	会意	会意形声	形声
920	明	8	2	会意	会意	会意	会意
921	迷	9	5	会意兼形声	形声	形声	形声
922	盟	13	6	会意兼形声	会意	会意形声	形声
923	鳴	14	2	会意	会意	会意	会意
924	面	9	3	会意	象形	象形指事	会意
925	綿	14	5	会意	会意	会意	会意

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
926	模	14	6	会意兼形声	形声	形声	形声
927	毛	4	2	象形	象形	象形	象形
928	目	5	1	象形	象形	象形	象形
929	門	8	2	象形	象形	会意	象形
930	問	11	3	会意兼形声	会意	形声	形声
931	夜	8	2	会意兼形声	会意	形声	形声
932	野	11	2	会意兼形声	形声	形声	形声
933	役	7	3	会意	会意	会意	会意
934	約	9	4	会意	形声	形声	形声
935	訳	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
936	菓	16	3	会意兼形声	形声	形声	形声
937	由	5	3	象形	象形	象形	象形
938	油	8	3	会意兼形声	形声	形声	形声
939	輪	16	5	形声	形声	会意形声	形声
940	友	4	2	会意	会意	会意形声	会意に声をかねた字
941	有	6	3	会意兼形声	会意	会意形声	会意
942	勇	9	4	会意兼形声	形声	形声	形声
943	郵	11	6	会意	会意	会意	形声
944	遊	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
945	優	17	6	会意兼形声	形声	形声	形声
946	予	4	3	象形	形声	象形・形声	指事
947	余	7	5	会意	形声	象形	象形
948	預	13	5	会意兼形声	形声	形声	形声
949	幼	5	6	会意兼形声	象形	会意形声	会意に声をかねた字
950	用	5	2	会意	象形	象形	象形
951	羊	6	3	象形	象形	象形	象形
952	洋	9	3	形声	形声	形声	形声
953	要	9	4	会意	象形	会意	象形
954	容	10	5	会意兼形声	会意	形声	形声
955	菓	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	形声
956	陽	12	3	会意兼形声	形声	会意形声	会意に声をかねた字
957	様	14	3	形声	形声	形声	形声
958	養	15	4	会意兼形声	形声	形声	形声
959	曜	18	2	会意兼形声	形声	形声	形声
960	浴	10	4	会意兼形声	形声	形声	形声
961	欲	11	6	会意兼形声	形声	形声	形声
962	翌	11	6	会意兼形声	形声	会意形声	形声
963	来	7	2	象形	象形	象形	象形
964	落	12	3	形声	形声	形声	形声
965	乱	7	6	会意	会意	会意	形声
966	卵	7	6	象形	象形	象形	不明

	漢字	画数	学年	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
967	覽	17	6	会意兼形声	会意	会意形声	形声
968	利	7	4	会意	会意	会意	会意
969	里	7	2	会意	会意	会意	会意
970	理	11	2	会意兼形声	形声	会意形声	形声
971	裏	13	6	会意兼形声	形声	形声	形声
972	陸	11	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
973	立	5	1	会意	会意	象形指事	象形
974	律	9	6	会意	形声	形声	形声
975	略	11	5	形声	形声	形声	形声
976	流	10	3	会意兼形声	会意	会意形声	会意に声をかねた字
977	留	10	5	会意	会意	形声	形声
978	旅	10	3	会意	会意	会意	形声
979	兩	6	3	象形	象形	象形	象形
980	良	7	4	会意	象形	象形指事	不明
981	料	10	4	会意	会意	会意	形声
982	量	12	4	会意	象形	会意	形声
983	領	14	5	会意兼形声	形声	形声	形声
984	力	2	1	象形	象形	象形	象形
985	緑	14	3	会意兼形声	形声	形声	形声
986	林	8	1	会意	会意	会意	会意
987	輪	15	4	会意兼形声	形声	形声	形声
988	臨	18	6	会意	会意	会意形声	形声
989	類	18	4	会意	会意	形声	形声
990	令	5	4	会意	象形	会意	形声
991	礼	5	3	会意兼形声	形声	形声	会意に声をかねた字
992	冷	7	4	会意兼形声	形声	形声	形声
993	例	8	4	会意兼形声	形声	会意形声	形声
994	歴	14	4	会意兼形声	形声	形声	形声
995	列	6	3	会意	会意	形声	形声
996	連	10	4	会意	会意	会意形声	形声
997	練	14	3	会意兼形声	形声	形声	形声
998	路	13	3	形声	形声	形声	形声
999	老	6	4	象形	会意	象形	象形
1000	劳	7	4	会意	会意	形声	会意に声をかねた字
1001	朗	10	6	会意兼形声	形声	形声	形声
1002	六	4	1	象形	仮借	象形	象形
1003	録	16	4	会意兼形声	形声	形声	形声
1004	論	15	6	会意兼形声	形声	形声	形声
1005	和	8	3	会意兼形声	会意	形声	形声
1006	話	13	2	会意兼形声	形声	形声	形声

§2 分析と考察

実際に各資料を比較してみると、意外なことに、ほとんどの漢字において四資料の分類が一定しなかった¹¹。資料ごとで、各細目に分類されている字数は以下ようになった¹²。

	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
象形	125	178	113	156
指事	17	10	8	7
会意	288	313	138	80
形声	64	491	444	662
転注	0	0	0	0
仮借	1	11	0	0
象形兼指事	0	0	29	0
会意兼形声	511	0	274	95
不明	0	3	0	6

そして4資料を通していずれかの細目に分類が一定していたのは、1,006字中154字、約15%にとどまった。以下はその154字を細目ごとにまとめたものである。

象形	衣羽永火夏貝角革干九弓求牛魚京業曲玉月犬己戸午口交 行才冊皿山士子氏矢耳自車尺手主首女象心臣人水夕川泉 大竹丁兆長鳥田土刀豆肉日馬白飛文米方木万民毛目由羊 来 両 力 (78字)
指事	下 上 八 (3字)
会意	印 因 屋 害 看 宮 区 計 建 史 初 森 制 赤 折 争 多 断 乳 農 品 兵 並 閉 別 明 鳴 綿 役 利 里 林 (32字)
形声	映 塩 海 確 割 景 権 紅 昨 指 視 週 署 障 常 草 創 蔵 体 代 担 宙 腸 敵 鉄 当 討 党 等 糖 破 晩 鼻 布 副 仏 洋 様 落 略 路 (41字)

象形文字は、一見して衣・羽・火・貝・角といった普通名詞的な字が多い。実体のあるものを象るという造字法から考えても、名詞が多いのは十分に考えられることである。ところが、ここで挙げた文字には動詞や形容詞的に使われているものなども散見され、

11 表の作成に際しては各資料独自の分類の表現をそのまま用いたが、「会意兼形声」「会意形声」「会意に声をかねた字」の表現は実質的に同じものと判断してカウントしている。

12 解字に2説以上あったものはできるだけ著者の意図に沿った説を採用したが、特に説明がない場合は原則的に最初に書かれている説を採用した。

象形文字が単純に「物」を表しているばかりではないことがわかる。

動詞：求・曲・交・行・飛・来

形容詞：永・大・長・白

実体のない名詞：夏

数の概念：九・兆

象った「物」どおりの意味を表さない文字は、大きく二つに分けることができる。字義から派生した意味を表すものと、字音から当て字として使われるものである。

「大」は人が両手両足を広げて立っている姿を象っているといわれ、ひいては「おおきい」という概念を表すようになった。

「永」は本流から支流が分かれている川の形を象った象形文字であるが、支流のある長い川から、ひいては「ながい」という概念を表すようになった。

「白」は4資料いずれも象形に分類しているが、「しろい」という概念を表している。ところが、何を象ったものかという点で諸説分かれた。

どんぐり状の実を描いたもので、下の部分は実の台座、上半は、その実。(『漢字源』)

白骨化した頭顱の形。(『字統』)

月が光るさまにかたどる。(『新字源』)

親指の爪の長くのびた形の象形字。(『漢字字源辞典』)

白いものを象って「白い」という概念を表したという共通の理解はあるものの、肝心の何を象ったかということになると、どの説も想像の域を超えていない。これは極端な例かもしれないが、派生義を表しているために、由来が不明になってしまっている文字も存在している。

「夏」ももとは大きな面をかぶって舞う人の姿を象った象形文字であるが、季節の「なつ」や「おおきい」の意味を表すようになった理由は諸説ある。

頭上に飾りをつけた大きな面をかぶり、足をずらせて舞う人を描いたもの。仮面をつけるシャーマンの姿であろう。大きなおおいで下に物をカバーするとの意を含む。転じて大きい意となり、大民族を意味し、また、草木が盛んに茂って大地をおおう季節をあらわす。(『新字源』)

人が大きな面をかぶって舞っているさまにかたどる。もと、舞の名。夏祭りの舞から転じて、四季の「なつ」の意に、また、罅(カ)に通じて、おおきい意に用いる。(『漢字源』)

『角川新字源』と『漢字源』を比較しても、季節の「なつ」という派生義をもつまでの過程に考え方の違いがあるほか、「おおきい」という意味が派生義なのか、借用義なのかという点でも違いがみられる。

「来」の旧字「來」は麦科の植物を象った象形文字である。音が近かったことから「くる」の意味に借用されて、この字の本来の意味(本義)である「麦」の意味では使用さ

れなくなった。

「求」も元は動物の毛皮を描いた象形文字である。音が近かったか、あるいは毛皮は体に引き締めるようにしてまとうものという意味から派生して「もとめる」の意味で用いられるようになった。字が他の意味に借用されると、文字を使用する際、本義と借用義が混同し不便になる。やがて「もとめる」の意味で使われるのが一般的になったため、本義の「動物の毛皮」を表す際に「求」に義符「衣」を加えて「裘」の字が作られた。借用義での使用が一般的になると、元の字に義符を加えた字で本義を表すようになるという現象も起こっている¹³。

仮借と引申 上で見てきたように、作られた当初は象ったもの自体を表していても、時間の経過とともにそこから連想される他の意味を表すようになることがある。この現象は文字学では引申といい、派生した意味は引申義という名称で呼ばれる。一方、同じ音や近い音をもつ既存の文字を借用してある単語を表すことを仮借といい、借用されたとき表す意味は仮借義と呼ばれる。これは象形文字に限らず、あらゆる文字でみられる現象である。

このように、ひとくちに象形といっても単純に物の形を写したものではないのである。現在使用されている文字の形からもわかるように、漢字が必ずしも原初の姿をとどめているとは限らない。また、それらが表す意味においても、写した物そのものを表しているとは限らない。

ちなみに、仮借義でしか用いられない字を仮借文字と分類する例はみられたが、転注に分類された文字は全資料全漢字を通して見られなかった。実際のところ、用字法・応用法という位置づけから考えても、漢字を成り立ちから分類する際に転注や仮借で一項目をたてることは適当とはいえない。転注は、他の細目とその扱われ方に大きな隔たりがあるのである。

いままでの例は4資料で分類の見解が一致していた文字である。一方、4資料通して分類が一致していなかった漢字も5例見られた。

	『漢字源』	『字統』	『新字源』	『漢字字源辞典』
「軍」	会意	象形	会意形声	形声
「兄」	象形	会意	象形指事	形声
「妻」	会意	象形	会意形声	形声
「早」	象形	仮借	会意	形声
「毎」	会意兼形声	象形	象形指事	形声

13 「其」はもと農業用のかごを象った象形文字であったが、音を借りて指示詞に当てた用法が一般的となったため、義符「竹」を加えて「箕」とした。「然」も肉を火で焼いているところから「もやす」ことを表した会意文字であったが、のちに指示詞の用法で借用されるようになると、義符の「火」を加えて「燃」とした。

このうち3つの漢字について、各資料中の解字部分を抜き出してみよう。

- 「兄」・兄は頭の大きい子を描いたもので、大きい^いの意を含む。(『漢字源』)
- ・口と人(儿)とに従う。口は𠂔で、神に祈る祝詞を収める器の形。兄はこれを戴いて神を祭る人をあらわす。(『字統』)
 - ・兒(=兄)に対し、長大して頭がい骨の固まった人のさまにかたどる。(『角川新字源』)
 - ・「ことば」の意味を表す口と「儿」(厶)とからなる形声字。(『漢字字源辞典』)
- 「早」・くぬぎや、はんの木の実を描いたもの。早とも書き、その外皮は黒い染料に用いる。黒い意より転じて、朝の暗いときをさす。(『漢字源』)
- ・日の早晚とは、もと関係のない字であるが、その音を仮借して蚤(早)の意に用いる。(『字統』)
 - ・もと、萁と書き、艸(草意深いさま)のなかで日が葉末(早の十は艸の変わった形)にさしかかるさまによって、朝まだき、ひいて「はやい」意を表わした。のち省略して早と書く。(『角川新字源』)
 - ・意味を表す「日」と、音を表す「十」(甲)とからなる形声字。(『漢字字源辞典』)
- 「毎」・「頭に髪をゆった姿+(音符)母」で、母と同系であるが、とくに次々と子をうむことに重点をおいたことば。(『漢字源』)
- ・髪に簪飾しんを加えている婦人の形。(『字統』)
 - ・旧字は、もと、母が髪かざりをつけたさまにかたどる。教育漢字は省略形による。(『角川新字源』)
 - ・意味を表す「屮」(艸)木つの芽が上そうに伸び出た形ぼうと、音を表す「母」とからなる形声字。(『漢字字源辞典』)

調査によって明確になったのは、これほど幅広く辞書などで採用されている「六書」においても、専門家の間に分類、解釈の共通認識がないということである。「六書」の細目ごとに一定の共通概念があったとしても、各漢字がそれらの概念に必ずしも都合よく符合するわけではない。それゆえ分類者によってここまで判断の不一致が見られたのではないか。

4 六書解釈が一致しない理由

同じ字でありながら、分類に違いが出てきてしまうのには、主に次のような場合がある。

①複数の異なる字体がある場合

「欠」と「缺」、「鼎」と「縣」、「弁」と「辨」「瓣」「辯」といった、同義の異体字や旧字、略字が存在していると、どの字体を分類の基準とするかによって分類が異なる場合がある。たとえば、「弁」は会意文字に分類されているが、「弁」の異体字である「辨」「瓣」「辯」は形声文字に分類されている例がある。

②本義以外で使用される字義がある場合

本義が次第に影を薄め、主に仮借義や引申義で用いられるようになると、造字法で分類するか、応用法で分類するかの違いで不一致が起きる。『字統』は現在仮借義でしか用いられないことを根拠として教育用漢字のうち11文字を仮借文字と分類している¹⁴。しかしながら「当初どのように作られた漢字なのか」と「現在どのように使われている漢字なのか」というのは、本来ならまったく異なる論点である。本義以外で使用される漢字の分類にあたっては、どちらに基準を置くのか共通認識がなければ、当然分類者による分類の不一致が起り得る。

③義符や声符に対する認識が一致していない場合

形声文字に分類される文字は他の細目と比較して非常に多く、資料によっては8割とも9割ともいわれる。ところが4資料通して形声に分類された文字は41字と、数の上からみて象形の73字にはるか及ばなかった。このような結果が出たのには、『字統』を除く3資料が「会意兼形声」という分類を採用しているところが大きい。純粹に意味を表すだけの義符、音を表すだけの声符のほか、実際には義符が声符を兼ねていると考えられる例は少なくない¹⁵。また、前述の「兄」の字例を例にすると、「儿」の部分で「人」を意味する義符ととるか、厶の「オウ」という音を表す声符ととるかというように、解字の考えが異なる場合もある。形声文字に分類された字が少なかったのは、義符と声符はその性質を兼ね備えているものが多く存在していること、分類者によりその判断がさまざまであることによって、分類にばらつきが出た結果であろう。同様の理由で「義符＋義符」の造字法といえる会意文字も少なかった。

しかし、このような解釈の違いが生じるのには、やはり「六書」理論そのものにも原因がある¹⁶。「六書」は本来、漢字そのものの研究にもとづいて出てきた分類法ではなく、経書に根拠を求めて出てきたものであるため、「六」という数にあわせるため、四つは漢字の構成法に、二つは応用法に充てられている。そのため、漢字の構造の分析には前の四つだけで十分であるし、後の二つを持ちようとする、漢字を構造でなく、意味を表す方法（応用）の時点で六書解釈をしなければならなくなる。そのため、人によってどの時点で六書を考えるかに差が出てくる。それだけではない。細目の間でも、境界が曖昧な場合や六書分類が困難な場合があることが指摘されている。以下、具体例を少し挙げてみる。

象形×指事

象形文字は実物の形を象った字符で、表わされる単語がその象られている物体そのものの名称であるのに対し、指事文字は抽象的な形符で、表わされる単語は「物」の名称

14 ただし、先に挙げた「来」は仮借義でしか使用されていないにもかかわらず象形文字に分類していることなどから見ても、分類に一貫性はない。

15 段玉裁『説文解字注』「凡言亦声者、会意兼形声也。凡字有用六書之一者、有兼六書之二者。」

16 漢字構成法としては、四つも必要ないとして、唐蘭、陳夢家、裘錫圭も、それぞれの三書説を提示している。

ではなく「事」の名称とされる。

しかし実際には、具体的な事物を写したものが「象形」、抽象的な概念を具象化したものが「指事」とすっきり分けることはできない。目に見える具体的な形をもつものと目に見えない抽象的なものを両極端として、その間には連続してさまざまな程度で具体性と抽象性を併せ持つものが存在するからである。

また、先に見たとおり具体的な「物」を象っている、その単語が抽象的な「事」を表している場合もある。「大」という字は、字形は成人した大人を象ったもので、象形文字の「日」や「月」と同様である。ところが表される単語は象っている実物自身の名称ではなく象られた実物に関係のある「事」の名称である点は、指事文字「上」「下」に近いと考えられる。

象形×会意

「歩」は右足と左足の形符を組み合わせて、両足を使って「あるく」意味を表した会意文字と分類されることが多いが、歩く際に両足が前後するさまを象った象形文字と捉えることも可能である。また「伏」の構成は「人」と「犬」の象形を義符として組み合わせた会意文字であるが、人のわきに犬が控えている象形的な文字と考えることも可能である。

現在の字形をもって単体字は象形文字、合成字は会意文字と分けてしまうことはできるが、造字段階では象形の方法に近い会意文字も存在しており、古い字形にさかのぼればその象形性をみることができる。

上古の文字には「歪」（不正、正しからず）のように完全に偏旁の字義を組み合わせることによって意味を表現することは少なく、むしろ形符を使用した図画的な会意文字が多い。そのためしばしば象形文字と会意文字の間で分類が困難な文字が存在する¹⁷。

会意×形声

ここでは会意文字については義符が組み合わさった合成字、形声文字については義符と声符が組み合わさった合成字と定義して考える。

段玉裁は著書『説文解字注』の中で、「亦た声」と解説するものは「会意」と「形声」

17 関連して補足すると、裘錫圭(1988)では会意文字をA～Fの6タイプに分類を試みている。

- A. 図形方式の会意字「宿」(人が家の中でむしろを敷き寝ているさまを象る)や「北」(「背」の初文で二人の人が背中合わせになっているさまを象る)など。
- B. 偏旁同士の位置関係を利用した会意字「降」(足の形が下に向いていることで人が高いところから降りることを示す)や「相」(樹木を目でよく観察することを示す)など。
- C. 主体と器官の会意字「見」(目の機能なので「人」に「目」を加えて見ることを表す)や「走」(走って両肩が激しく動いている人の象形に足の形を加えて走ることを表す)など。
- D. 同一の偏旁を重複させた会意字「轟」(たくさんの車が走る音を表す)や「森」(木が多いさまを表す)など。
- E. 偏旁を続けて読むことによって単語になる会意字「歪」(「正しからず」と読むことで歪むという字義を示唆する)や「劣」(「力少なし」と読むことで弱いことを表す)など。
- F. その他「掃」(「手」に従い「帚」に従って、ほうきを持って掃除することを表す)や「邑」(地域を表す「口」の下に跪く人の形を加えて人の住んでいるところを表す)など。

を兼ねるとしている。義符と声符には両方を兼ねるものが存在するため、「会意」と「形声」もはっきりと分けられる対立概念にはならないのである。

例えば、「石」も義符、声符を兼ねる漢字の構成要素である。構成要素に「石」を含む漢字では「石」の要素がその漢字全体の中でどのように作用しているか、『漢字源』を参考に分類した。

「石」が義符として作用している漢字

- ・「石（義符）＋義符」の会意文字 岩^{ガン}・石^{トウ}・磊^{ライ}・碯^{はざま}（国字）・磔^{タク}など
- ・「石（義符）＋声符」の形声文字 破^ハ・確^{カク}・硯^{ケン}・砗^{ケイ}・磬^{ケイ}など
- ・「石（義符）＋義符兼声符」の会意兼形声文字 硬^{コウ}・砂^サ・砒^{サイ}・磁^ジ・磨^マなど

「石」が声符として作用している漢字

- ・「義符＋石（声符）」の形声文字 斫^{シャク}・妬^ト・柘^{シャ}・拓^{タク}・鉈^{セキ}

「石」が義符・声符を兼ねて作用している漢字

- ・「石（義符兼声符）＋義符」の会意兼形声文字 碩^{セキ}・跖^{セキ}・妬^{せき}（国字）

構成要素に「石」がある文字を複数比較してみると、「石」の要素がその漢字によって意味を表す場合もあれば音を表す場合もある。さらには「石」の要素が意味と音の両方を表していると考えられる場合もある¹⁸。

六書分類の際「会意兼形声」という分類を作らざるを得ないのはこうした実態があるためである。

造字法四書×仮借

先に述べたとおり「我」「干」「六」などは造字段階での字義と現在使用される字義、基準にする時点で分類の判断が変わる。現在を基準にするとかなり多くの文字が仮借文字に分類されてしまうため、造字の時点で分類するのが妥当であろう。また、仮借には別の問題も存在する。

仮借をめぐる問題

河野（1994）によれば、許慎の定義は以下のような意味を表している。

本無其字：もともと文字を持っていなかった語を既存の他の文字を借りて示すこと
 依聲託事：他の文字の借用が声即ち音韻の關係に依って為された音韻の類同關係を媒介として既存の文字を或る語に借用すること

つまり、仮借とは感情や抽象的な概念などを表す語を図形化するため、象形・指事・会意のような表意的手段によって既に作られている文字を表音的に借りて、意味は捨象し、文字を持たない語にあてる方法である。転注に比べれば仮借の解釈には問題がない

18 また、意味を表しているといっても、単に「石」の意味を表すほか「石のようにかたい」（硬）とか「石のようにつまっている」（碩）、「石場にすんでいる」（^{かじか}鮎）ことを意味している字も見受けられた。音を表している場合も、斫 [zhuo]・妬 [du]・柘 [zhe]・拓 [tuo]・鉈 [shi] と幅広い。「義符」「声符」という考え方自体、あまり適用範囲に厳格な規定はないようである。

かのように思える。しかし、もともと文字を持たなかった語が他の語を表していた文字を借りる「製字の仮借」だけでなく、既に専用の文字が他にある語が本来他の語を表す専用字であった文字を借用するという「用字の仮借」¹⁹があって、仮借問題を複雑にしているし、表音的に文字を借りるといってもどの範囲なら借用可能なのかという問題もある。仮借がどのような範囲で行われたかについては下のような様々な説がある。

朱駿声：同音、疊韻（二つの字音が同じ韻）、双声（二つの字音が同じ頭子音）

河野：同音、疊韻（頭子音にもなんらかの類似性が必要）、双声（韻にも何らかの類似が必要）

段玉裁：上古音の同じ韻部に属するもの間に行なわれる同部仮借（疊韻）が存在する。

張行孚：双声仮借の例が多い。

仮借と認められる場合、音声のどの程度の類似が要求されるか。そのような問題まで細かく見ていくと、一見単純そうに見える仮借にも問題がいろいろ存在することがわかる。しかし、この文の目的は仮借の問題を分析することではないので、ここでは、転注ほどではないにしろ、仮借の解釈にもいろいろな一筋縄ではいかない問題が存在することを指摘するにとどめる。

造字の初期は基本的に一義一音の原則であっただろう。しかし一つ一つの語がそれぞれ固有の意味を持つとなると、膨大な数の文字を必要とする。そこで既成の表語文字を、本来表した語の意味を捨象して、その音形を表す表音記号として使うことが始まった。単純にいつてしまえば、この現象が仮借なのである。仮借が用いられることで、文字の言語記録能力は飛躍的に高まった。しかし仮借された文字自体にはもともとその字が表す単語（原義）があるうえ、同音または近似した音をもつ単語をも表現するとすると、その文字が表す単語が複数個あることになり、どの意味で使用されているのかが読み手にとって判断しにくくなるという現象が起こった。そこで、仮借義で使っていた文字に、義符を与えることで意味を区別したのが形声文字である。仮借の現象は形声文字が作られる要因にもなっていると考えられる²⁰。このあたりが形声と仮借の境界を曖昧にして

19 通仮や通借とも呼ばれる。

20 形声文字の成り立ちを裘錫圭（1988）は次の4タイプに分類している。

1. 表意文字への音符の付加

「鷄」（鷄の象形に音符の「奚」が加えられ、後に鷄を象った形符は「鳥」の旁に取って代わられた）や「齒」（齒の並んだ口の象形に音符「止」が加えられた）など。

2. 表意文字の字形の一部の音符への変換

「何」（本義は「荷」、人が物を担ぐ姿を象ったのが担ぐ人の形が普通の人の形に簡略化され、担いでいる物は形の近い「可」に改められた）など。

3. 既存の文字への付加

A. 仮借義を明確にするための意符の付加「獅」（「師」の字を借りて「獅」を表していたものに「犬」の旁を加えた）など。B. 引申義を明確にするための意符の付加「娶」（「取」は「娶」の意味に派生し、後に「女」を加えた）など。C. 本義を明確にするための意符の付加「源」（「原」の本義をはっきりさせるため意符「水」が加えられた）など。

いる原因なのかもしれない。

5 おわりに

以上で見てきたように、漢字の分類法としての六書はシステムとして多くの問題を抱えている。しかし、私たちが漢字を日常的に使用するためには、その字の形音義の由来まで正確に理解する必要はない。したがって造字法によって漢字を分類する六書にこだわる必要もないのである。例えば「泉」という字はもとは象形の方法で作られた単体字であるが、現在の形状を見て本来の成り立ちがわかる人はほとんどいないであろう。漢和辞典では便宜的に水部に属しており、私たちが漢字を調べる際にはふつう「白+水」の構成と見当をつけて探す。このような漢字の捉え方は、漢字を学習、習得していくうえで特に支障はない。

ところが、現実には「白い水が湧き出すから『泉』』というような、造字当時の字形から見て明らかに誤った字の解釈がまことしやかに語られ、それを鵜呑みにしてしまう人も少なくない。これでは漢字の正しい理解は得られないことを指摘しておきたい。

そもそも、六書という伝統的な枠組みにとらわれすぎたために漢字分類に破綻がうまれてしまったのである。私の考えでは、漢字の習熟度や興味関心の対象、程度によって段階的な分類法が用意されていればよいのではないかと思う。そこで、その漢字分類法を紹介して、本稿を締めくくることにする。

単体字、合成字 まず、基礎的な漢字分類を応用するため漢字教育の場を考える。漢字の基本的な成り立ちを教える際には、単体字と合成字という最も基本的で分かりやすい分類を用いるのが適当ではないだろうか。

象形、形声 六書のうち「象形」や「形声」の考え方をを用いて教えることには正当性があると考えられる。例えば象形文字という概念を教えることで、漢字をより身近に感じ、象っている物の形と関連付けながら漢字を習得することが期待できる。形声文字は義符と声符の組み合わせという簡単な理解があれば、漢字を要素で記憶し、意味や音の推測にも応用できる。また単体字と合成字という考え方を知らなくてもこの2細目で十分であろう。一方、曖昧な「指事」や「会意」、漢字の音にまつわる一現象と言ってしまうこともできる「仮借」、実態の不明な「転注」はここでは無視している。

基本的な構造が理解できれば、造字当時の成り立ちや原義の理解は漢字を使用する分には特に必要がない知識と考えた。

表意文字、仮借文字、形声文字 しかし、「象形」と「形声」だけでは当然造字を説

4. 形声文字の偏旁の改変

「賑」（「振起」の「振」が「賑濟」の意味に派生した後に「手」が「貝」の旁に改められた）など。

ここでいう形声文字はタイプ3のAに該当する。

明したことにはならない。踏み込んだ理解を必要とするならば、さらに細かい分類が求められる。具象度の高いものを表す単語から抽象度の高いものを表す単語まで含め、主に三要素の「義」を表すことに主眼を置いた表意文字、「音」を表すことに主眼を置いた仮借文字、「義」「音」の要素を兼ね備えた形声文字の三つに分類するという裘錫圭の説が合理的なように思われる。彼はその著書でこの3つの項をさらに細かく分類して説明している。矛盾の生じない一分類法として価値のあるものである。

単体表意字、合成表意字、形声文字 これは六書のうち「造字法」とされていた象形、指事、会意、形声を基本とし、経験的にそれをアレンジした私独自の分類法である。ここではできるだけ造字された当時の字義に沿って分類を行うため、仮借や引申など応用的・派生的な用法は含めない。「単体表意字」とは六書で言うところの「象形」と「指事」を合わせたものである。一緒にしたのは、今回の調査の結果、「指事」に分類される文字が総じて圧倒的に少なかったため、一項を立てる必要はないと判断したためである。「合成表意字」は基本的に会意文字と同じものである。ただし「会意兼形声」は含めない。私たちは漢字を学習する際や知らない漢字に出会った時、たびたびその漢字の構成要素から意味や音を推測することがある。漢字を使用する私たちにとって要素ごとに分けて考えるのは習慣的なことであるから、まず分割できる漢字は単体字と区別する。また、音を表す機能を持つ構成要素は、それが義符を兼ねようが、すべて「形声」と判断する。その結果、単体字はすべて「単体字的表意」「形声」以外の合成字は「合成表意字」となる。

【参考文献】

- 裘錫圭 1988『文字学概要』商務印書館
河野六郎 1994「文字の本質」『文字論』三省堂
森賀一恵 2007「漢字の本質」(『漢字教育研究』第8号所収)
藤枝晃 1971『文字の文化史』岩波書店
李学勤(小幡敏行訳)1990『中国古代漢字学の第一歩』凱風社
大原信一 1989『新・漢字のうっかりかわり』東方書店
岡村秀典 2009「漢字のはじまりと拡散」『漢字文化三千年』臨川書店
阿辻哲次 2001『漢字道楽』講談社選書メチエ
阿辻哲次 1985『漢字学—<<説文解字>>の世界』東海大学出版会
呂叔湘 1998『語文常談』三聯書店
杜学知 1977『六書今義』正中書局
丁福保 1982『説文解字詁林』中華書局
文部科学省『小学校学習指導要領』第1節 国語
藤堂明保, 竹田晃, 松本昭, 加納喜光 2001『漢字源』学習研究社
白川静 2007『字統』普及版 平凡社
小川環樹, 西田太郎, 赤塚忠 1994『角川新字源』改訂版 角川書店
山田勝美, 進藤英幸 1995『漢字字源辞典』角川書店